

平成19年度北海道大学公開講座 くらしを創る - 安全と安心の科学 -

講座内容	本公開講座は、一昨年の「くらしが危ない」、昨年の「くらしを守る」をテーマにした「安全と安心の科学」についての講座を受け継ぎ、さらに発展させ、「くらしを創る」をテーマにしています。交通、自然保護、エネルギー、医療、過疎化や地方財政危機のもとでの地域づくり・まちづくりのあり方など北海道大学ですめられている先端的で多面的な研究成果に基づき、北海道の歴史や自然や産業の現状と課題を踏まえて、私たちのくらしをいかに創造すべきかについて学習します。
受講資格	18才以上の方であればどなたでも受講できます。(学歴等は問いません)
受講料	5,000円(既納の受講料はお返しできません。) 別添の「振込用紙」により振込みください。なお、郵便振替払込受付証明書は、受講申込書の裏面に貼り付けて提出してください。
特定講義の受講	8回シリーズの講義のうち、席に余裕がある場合には、特定の講義の受講も受け付けますので、希望される方は問い合わせ先までご連絡ください。 (特定の講義の受講を希望する場合 1回 1,500円)
定員	100名程度
修了証書	6回以上受講した方には、最終講義終了時に修了証書を交付します。

道民カレッジ	本講座は道民カレッジの連携講座として指定されています。 (環境生活コース・16単位)
申込期間	平成19年6月11日(月)～平成19年6月26日(火) 9:00～17:00(土曜日、日曜日を除く。) 特定の講義の受講を希望する場合には、希望する講義開催日の3日前までにご連絡願います。
申込手続	申し込みは、事前に下記の「問い合わせ申し込み先」に電話連絡により定員の超過の有無を確認の上、直接又は郵送で行ってください。 直接申し込む場合は、受講申込書の裏面に郵便振替払込受付証明書を貼付して申し込んでください。 郵送で申し込む場合は、受講申込書の裏面に郵便振替払込受付証明書を貼付し、240円切手同封(テキスト及び受講者証等の郵送料分)の上、書留便にて郵送してください。 注)受講料は、必ず郵便局又は銀行等の「窓口」で振り込みの手続きをしてください。 ATM(現金自動預払機)は使用できません。また、普通為替や現金では受理できないので注意願います。
問い合わせ申し込み先	北海道大学学務部教務課(生涯学習担当) 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 高等教育機能開発総合センター1階6番公開講座窓口 電話(011)706-5252・5253(直通)

(講義時間は毎回午後6:30～8:30)

日程	講義題目	概要	講師
第1回 7月2日(月)	北海道民の新しい暮らしをつくる新幹線	北海道新幹線は平成17年5月に新青森～新函館が着工され、平成19年末には札幌延伸について審議される予定です。北海道新幹線が完成すると新函館～札幌間が50分で結ばれます。またCO ₂ の排出量が航空機の1/5、原油消費量が1/3と少なく、地球環境に優しい交通機関です。この新幹線が北海道の暮らしをどのように変えるのか、また私たちはどのように活用していくかについて講義します。	工学研究科 教授 佐藤 馨一
第2回 7月5日(木)	フツの高校生の素顔 - 自分らしさへの期待と諦めを生きる	今の高校生は昔と大きく変わったと言われている。確かに彼らを取り巻く状況は激変した。「ゆとり教育」、「大学の全入化」等の要因は教育から厳しさを奪い、卒業後に就くことになる仕事は雇用の非正規化と正規職の労働強化により厳しくなっている。彼らの内面を支えた価値も相対化し、消費社会で「王様」の体験もする。このような変化の中で、高校生は何を考え、今を生きているのか。調査をもとに考察する。	教育学研究院 准教授 浅川 和幸
第3回 7月9日(月)	今日の子どもの攻撃性と教育について - 貧困・格差・排除・いじめ・虐待の視点から -	不登校・ひきこもり・いじめ・虐待の問題が各論的にわが国の教育議論を席捲していた。ところが、近年、貧困・格差・社会的排除の問題が、子ども・若者の心理と行動を分析し教育をとらえようとする際の重要な概念として浮上している。「臨床」という言葉でひとくくりにしてしまわないで社会史の視点から考察してみると、攻撃性・暴力と安全・安心の獲得の世界史が見えてくる。	教育学研究院 准教授 間宮 正幸
第4回 7月12日(木)	自然を復元できるか	全国で森や川や湿地、沿岸域の自然再生事業が実施されるようになってきた。北海道でも釧路湿原やサロベツ湿原、標津川、知床世界自然遺産区域など、様々な生態系に対して、復元や修復事業が実施されようとしている。この講義では、それら自然再生事業の現状をお伝えし、科学と技術の果たす役割、研究者の役割、地域の合意など、うまくいっている点、未だ達成できていない点、その理由などを解説したい。	農学研究院 教授 中村 太士
第5回 7月19日(木)	バイオマスエネルギーの課題	バイオマスはカーボンニュートラルで環境に優しいといわれるが、広く薄く存在し、しかもエネルギー密度は石油に比べて小さい。これをどのように集めるか、これが入口の問題である。同時に生産された気体・液体の燃料を如何に利用するか、このバイオマスエネルギーがエネルギー的・環境的・経済的に適合するものであるか、そのようにするためにはどうしたらいいか多くの出口の問題がある。	農学研究院 教授 松田 従三
第6回 7月23日(月)	「地方分権改革と行財政 - 夕張問題と道州制を繋ぐ -」	第2次地方分権改革がスタートした。従来の分権議論が「官の分権議論」であったのに対して「市民本位の分権議論」を目指すことが掲げられている。一方で、夕張市だけでなく道内の地方自治体の財政は悪化の一途を辿っており、財政危機の克服なくして地域の自立も実現しない。本講では、国の分権改革議論、道州制議論を検証しつつ、地域のあり方について考える。	公共政策学連携研究部 教授 宮脇 淳
第7回 7月26日(木)	地域の自立とは何か - “小さくても輝く村”西興部村に学ぶ -	わが国はいま、市町村合併問題の最終盤にある。市町村合併をめぐる単に合併か否かが問題なのではなく、過疎、財政難、経済停滞のなかで地域(市町村)が現状と将来をいかに生きるのかという地域の自立性が実は最大の焦点である。そうした観点に立つとき、北海道で2番目に小さい村・西興部村の取り組みは注目に値する。同村の意欲的な実践から、地域の自立とは何か、教訓を引き出してみたい。	北方生物圏フィールド科学センター 教授 神沼公三郎
第8回 7月30日(月)	安全・安心の地域医療は可能か	北海道の地域医療は危機に瀕している。医師の引き上げが顕著で、安心の医療は失われている。新医師臨床研修の影響で、大学病院の医師不足、大病院医師の過重労働、サボタージュ型の開業の流れができてしまった。医療における安全を確保するためには、従事者のミスを最小限にしていく対策とともに、患者・家族との信頼関係に基づく診療が保証されなければならない。これからの医療のあり方をともに考えたい。	医学研究科 教授 前沢 政次